

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は、生命維持に重要な呼吸・摂食嚥下・音声言語の機能を扱うと同時に、聴覚・嗅覚・味覚・平衡感覚などを取り扱う感覚器の専門でもあります。ゆえに生死にかかわる疾患を取り扱うとともに、日常生活にアクセントを加え、生活を豊かに過ごすためには欠かせない大切な器官も取り扱うことができる専門科です。

当院では、①耳鼻咽喉科救急疾患・他医療機関からの紹介対応、②入院が必要な急性疾患・手術を要する疾患の診断と治療の2点を主な役割として業務を行っています。保存的治療が主体となる、アレルギー疾患、急性中耳炎、副鼻腔炎などは、自宅近くのかかりつけ医での治療を勧めています。出雲医療圏内には耳鼻咽喉科開業医の先生方が比較的多く、外来診療の機能分化を目指し連携しています。

当科の特徴として、頭頸部良性疾患から悪性疾患まで幅広く扱っていますが、島根大学耳鼻咽喉科と連携し、当院では**common disease**を主に扱っています。

手術は全身麻酔下に行う手術が多く、口蓋扁桃摘出術などの口腔・咽頭手術、内視鏡下副鼻腔手術、顕微鏡下喉頭手術、甲状腺疾患など主に手術を行っています。救急疾患は、ドクターヘリを配備した高度救命救急センターということから、異物・鼻出血から、急性喉頭蓋炎・深頸部感染症に至るまで多彩な症例に携わり、気道狭窄を来すような命に係わる症例は救命救急科と協力し治療を行っています。当院の良い点は、各科との垣根が低く、相談しやすく、頭頸部癌などで耳鼻咽喉科だけで手術完結困難な症例に対しても快く協力してくれます。

耳鼻咽喉科は「いわゆるマイナー外科」に分類され、手術・病棟での術後管理などをこなす反面、難聴・めまい・アレルギーなど、薬物治療の比重が高くなり、内科的治療を行う機会も持ち合わせます。それゆえ、働き方は自由度が高く、開業も可能であり、特に女性医師にとっては、家庭状況に応じて働き方を比較的選びやすい科であると言えます。また、小児疾患を取り扱うことも多く、女性ならではの配慮が喜ばれ、女性が活躍しやすい科の一つと考えます。

近年耳鼻科を志す医師は減少しています。臨床研修医制度が始まるまでは全国的には毎年300人程度の耳鼻咽喉科医師が誕生していましたが、近年は200人達しない状況です。島根県も例外ではなく、島根県西部には入院を受け持つ勤務医が一人もいない状態です。出雲は島根大学と島根県立中央病院があり安泰かというところでもありません。明日の耳鼻咽喉科を支えてくれる若い研修医の到来を心待ちにしています。

